

久勝小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

研究主題
課題解決を目指して、主体的に行動する児童の育成

①「聴く力」の育成
②主体的に学習し、伸びる喜びを知らせるための「分かる授業」の構築

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 田中ひろみ	委員	校長	小林 秀樹	教頭	吉岡 壮吉
		教務	篠原 督人		中学年
		低学年	松村 淳子	少人数・TT	美馬美和子
		高学年	枝澤 申代		

校長
小林 秀樹

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 漢字の読み書きや整数の四則計算等については、ある程度の定着が見られる。	①授業中のきまりを守り、話をしっかり聴くことができる。 ②課題に進んで取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。	①学習や生活のきまりを守る。(児童アンケート80%以上) ②全国調査・ステップアップテストのA問題で平均正答率が県平均以上	朝のモジュール学習の最初の2分間で、毎日5問程度の漢字テストと計算テストを交互に行い、漢字と計算の力の定着を図る。	①授業規律の徹底を図り、「聞き方・話し方名人」を意識した指導を継続して行った。 ②基礎・基本を身に付けさせるための小テストを、スモールステップで継続して行うことができた。	見直し以後の、漢字・計算の確認テストの正答率がほとんどの学級で上がった。全国学習学力状況調査及び県学力カステップアップテストのA問題で、県平均を上回ったものが多かった。
課題 基礎的・基本的な内容が身につけていない児童もあり、学力に個人差がある。個人のつまずきを把握し、個に応じた指導や、家庭での自主学習につなげる必要がある。	①学級で決めたきまりや「聞き方・話し方名人」をしっかりと活用し、徹底を図る。 ②音読・漢字・計算などの繰り返し指導と確認テストを継続的に実施する。	①常時声かけをしながらの意識づけをしたり、年3回のチェックシートを用いたりする。 ②確認テストで正答率80%未満の児童に個別に関わる。		評価 B	次年度における改善事項 ①聴く力が十分身に付いているとはいえないので、次年度も「聞き方チェックシート」を用いて指導したり、聴くことを意識させる活動を工夫したりして聴く力の向上を図る。 ②モジュール学習の時間を効果的に使い、基礎・基本を身に付けさせるための小テストを、スモールステップで継続して行う。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ グループ学習で意見を交換したり、まとめたことを発表したりするなどの表現活動に意欲的である。	①人の話を考えながら正しく聴くことができ、目的に応じた確に読むことができる。 ②自分の考えを根拠をもちながら、筋道を立てて表現することができる。	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは得意」と答える児童の割合が80%以上。	国語の時間に限らず、様々な学習活動で自分の考えを明確にして話し合う活動を取り入れ、他者の意見と比較することで、思考を深められるような授業展開を心がける。	①聞き取りについては、さらなる方策が必要である。 ②ペア学習やグループ学習を取り入れ、発表の機会を増やし、自信を持って発表できるよう支援してきた。ホワイトボードを有効に活用できた。	ペア学習やグループ学習を多く取り入れたり、表現のツールとしてホワイトボードを有効に活用したりすることで、表現に対する児童の意識は向上してきているが、まだ十分とはいえない。
課題 学習の基本となる聴く力、問題解決のために必要な情報や知識・技能を選択し活用する力に課題がある。他者の意見を聞き、自分の考えを筋道をたてて説明する力に課題がある。	①聞き取り、読み取りトレーニングを行う。 ②ホワイトボードを活用し、グループや全体のなかで自分の考えを表現する機会を意図的に設ける。	①モジュールの時間等を活用し、各学級で月2回実施する。 ②1日1回は様々な教科でグループ活動を取り入れ、自分の思いや考えを表現する活動を行う。		評価 B	次年度における改善事項 ①各教科で班での話し合い活動を積極的に取り入れ、司会者を交替で経験させるなどして聞き取る力の向上を図る。 ②問題解決的な授業を展開し、根拠を明確にして自分の考えをもち、自分の考えを説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりしながら考える学習活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた課題や方法・手順がわかる学習には真面目に取り組むことができる。	①「家庭学習の手引き」を活用して、主体的に学習に取り組む。 ②基本的な生活習慣調査の全項目の達成ができる。	①「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」や「国語や算数の勉強が好き」と答える児童の割合を80%以上。 ②達成率80%以上。	問題解決型の授業を充実させるとともに、授業後に児童自身が今日学習したことや分かったことを振り返り確認できるようなノート指導を、学年の発達段階に応じて行う。	①「めあて」と「振り返り」を意識した授業が定着している。 ②学習・生活習慣アンケートを通して児童自身が振り返りを行うことができた。	基本的な生活習慣アンケートでは、学年が上がるにつれて決めた時間に起きられない児童が増えてはいるが、全項目を通して達成率は80%を上回った。
課題 自ら問題を見つけ取り組んだり、広げたりする意欲に課題が見られる。基本的な生活習慣が十分に身につけていない児童がいる。	①「分かる」授業の確立をめざして、全学年で共通した「学習の流れ」を活用する。 ②家庭学習・生活リズムチェックカードを通して、意識の向上を図る。	①「学習の流れ」を活用し、全学年で毎時間取り組む。また、ICTを積極的に活用する。 ②チェックを年間3回行う。		評価 B	次年度における改善事項 ①問題解決的な授業展開の中で、ICTを効果的に活用するなど授業改善を図る。 ②学習・生活習慣アンケートを学期ごとに行い、子供の意識付けを図る。

平成30年度 学力向上ロードマップ

